

あべの

VOL.191

△サロン・あべの△4月の出会い

新緑がまぶしくなり、早々と藤や臈月の花が咲き始めた平成14年4月20日(土)、△サロン・あべの△は、育徳コミュニティセンターで原田博子氏(旧姓 前田博子さん)を迎えて4月の出会いを持ちました。

原田博子氏は「あべのボランティア・ビューロー」に昭和61

年5月よりボランティアコーディネーターとして就任されました。△サロン・あべの△が発足し、活動を始めたのも同じ年でした。そのビューローから見えた「あべのサロン」を思い出のあれこれをお話いただ

きました。

あべのボランティア・ビューローとは

「あべのボランティア・ビューロー」は大阪ボランティア協会と大阪社会福祉協議会の協力のもと、2～3年の準備期間を経て阿倍野区に昭和60年(1985年)6月に育徳コミュニティセンター2階のピアノ教室に設立。開所日は月・水・土の午後1時～7時。大阪市内26区(当時の数字、現在は24区)中、一番最初に開設されたのが阿倍野ということは、当時の阿倍野にはボランティアの素地があったからと考える。ボランティア・ビューロー開設の準備期間から岡知史氏に関わり、初代コーディネーターとして勤務されており、原田博子氏が勤務を始めたのは、大阪府立大学社会福祉

あべの頃のサロン



学科を卒業した年の昭和61年（1986年）春。秋に岡氏とのコーディネート交代時期までの間、週1〜2回の交代勤務をされていた。

その頃のボランティア観、福祉観

ビューローが発足した頃のボランティア観は、「する方・しとあげる方」という考え方が主流で、受ける側は「される方・してもらう方」という区分意識があった。その一方で、障害者の生活などは「施設福祉」から「地域福祉」へと考えるようになった。その地域福祉を支えていく柱の一つがボランティアであり、ボランティア活動の福祉理念も、「与えられる福祉」から「参加する福祉」へと移行していた。地域の中でお互いに助

け合える社会を造っていくにはボランティアの育成、ニーズの把握、ボランティアグループの側面からの支援などがビューローの役割。それと共にボランティア同志の意志の疎通や交流が大切であり、ビューローがその



あの頃の私は箱入り娘でして・・・

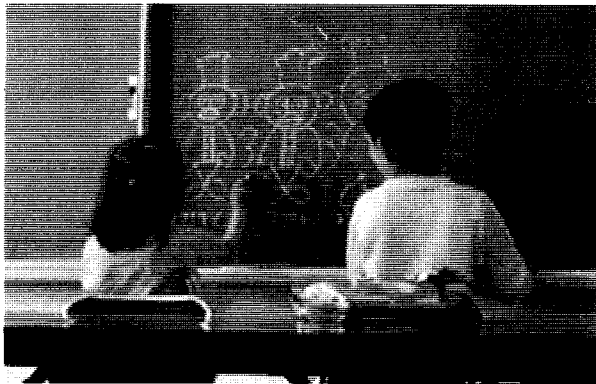
場所を提供したり、区内のボランティアグループ全体の交流会も開催。原田博子氏が勤務した翌年から、ボランティア・ビューロー室は育徳コミュニティセンター北側にある育徳会館1階の部屋に移転。ここは、それま

でと違いキッチンやトイレも室内に付いていて、その上畳敷きの部屋で独立していたので、ボランティア方も前を通りがかったからと顔を見せて話が弾んで、和やかな雰囲気がつつもしていた。このムード作りを陰から支えていたのが岡氏の時からボランティアとしてビューローに手伝いに来られていた奥田久子さん。もの静かな方でそれでいて手際よくビューローの仕事を補佐されていた。

私が目指したもの

原田博子氏がビューローに勤務した頃、すでにハサロン・あべのVは活動を始めていた。しかし、一般のボランティアは「ボランティアする人・される人」という考え方が主流であったため、障害者が参加してい

るサロン活動がボランティアの一部には受け入れにくい状況もあった。その中でビューローは、サロン活動をボランティアグループ活動という認識で他のグループと同じ立場において側面から支援した。その年の夏（1986年）には、ハサロン・あべのVに大阪市ボランティア活動振興基金への助成金申請書の提出を指導。秋にはその助成金が交付された。また、11月にはビューロー主催で第1回阿倍野区ボランティア交流会を開催し、サロングруппもこの交流会に参加。他のグループの人たちにサロン活動を伝える場とした。原田博子氏が学んだ福祉の理論（ほどこしや与えるものではなく、福祉をささえるのは人間・その人間が暮らしている地域）を「あべのボランティア・ビューロー」でもとめた。その思



スペシャルゲスト
友弥くん(右)と咲子ちゃん

いの一つを実現してくれたのがサロンではなかったか。障害者と健常者が同じ地域の人として出会い、共に考える場を提供したいというサロンの願いが、ビューローから福祉を育て支えていく、その輪を拡げていく、人材を育てるといふ共通した考えと共に鳴しあえる思いがあった。ビューロー三年余の在勤に、草

創期のサロンが花を添えてくれた思いがする。お互いラッキーな出会いだったのでは……。

あの頃の笑顔のままで「あの頃のサロン」を語られる原田博子さん、この日ご主人の原田仁氏と共に長男友弥君(小学3年生)と長女咲子ちゃん(年長組)も参加していただき、慶びの歳

月をも見せていただきました。ビューローからサロン活動を側面から支援して下さったご苦労が話の端々に感じられ、あの頃が、あの時が:と思い当たることも多くありました。参加された方からは、ビューロー活動の思い出がいろいろと語られました。特にアルミ缶や牛乳パックを収集して、その収益金で

車いすを購入したりサイクル活動の話は、初めて聞く人もおられ、隔世の感を如実に感じさせられたハサロン・あべのV4月の出会いでした。

なお、見出しの似顔絵は、本紙九号(昭和六二年三月十四日(王)発行)の座談会から転載しました。

参加者18名(富田慶子)

お知らせ

<サロン・あべの> 6月の出会い

日時…6月15日(土) 午後1時~4時
場所…育徳コミュニティーセンター2階
研修室(スロープ・車いすトイレ有)
大阪市阿倍野区阪南町5-15-28
TEL 06-6621-1901
最寄り駅=

- ・地下鉄御堂筋線「西田辺」
- ・赤バス「育徳会館」

内容…声で読書のお手伝い
パネラー…井上礼子氏(朗読ボランティアグループ「糸でんわ」代表)
会費…なし
問い合わせ先…
TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



出会えてよかった

出会いのよろこび

30数年の人生の中で、いろんな人と出会い、教えられ、助けられ生きてきました。でも、私の人生の最大・最高の出会いは、やはり出産でしょう。

胸がムカムカして何も食べられない日が続き、少し食べられるようになるとお腹が出っ張って身体が重くて動きにくくなり、「こんなに痛いことがあるのか」と思いながらの分娩。そしてやっと出会える赤ちゃん。さっきまでお腹の中にいたなんて信じられないくらい、人間の形をしていて、生命の神秘を教えてもらいま

した。

そして始まる赤ちゃんとの日々。1〜3時間毎に泣く赤ちゃんにつきあえる自分にびっくりすると同時に、自分の母もこうやって自分を育てたのかと思うと、自分のことも、そうやって育てられた周囲の人も大切に思えてきます。親になる前は、虐待する親を理解できない部分がありました。が、「かわいい」だけですまない育児の中で、自分の子どもが大切にできない理由が何かあるんだろうな、と思うようになりました。

私にとつて、出産して子どもと出会えたことは大きなプラスですが、もし出産してい

なかったとしたら、それはそれで自分の自由な時間の中で、もつと違う出会いがたくさんあっただろうな、と考える時もあります。

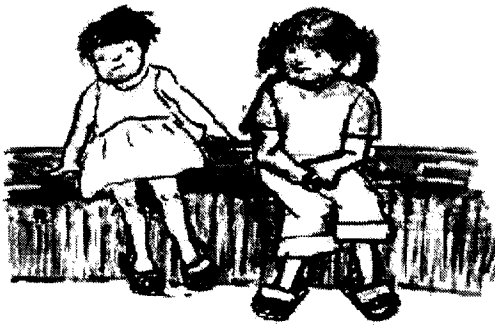
何より自分が「この人に会えて良かったな」と思ってもらえる人になれるよう頑張りたい

と思います。(藤村美登利)

出会えて本当によかった

人にはいろいろの出会いがあります。私はずっと変わったモノと出会い、今は一番大切な宝物です。

十年ほど前にもらった信楽焼のタヌキの置物です。初めはこんな置物、とって、箱にしまい込んでいたのですが、地震のときに棚からおちてきました。よく見れば、とつてもかわいくて、顔はおにぎりをつぶしたように横に広がっていて、とてもおもしろいので、毎日見ているあ





きが来ません。目は真ん丸で、私の心の中を見通すように、じいっとこつちを見つめているのです。口は今にもしゃべってくれそうな感じがして、一日の出来事を話しているとき、気持ちがほっとするのです。苦しいとき、悲しいとき、いつも側で微笑みかけてくれるような気がします。

このような置物でも大切にしていたら、気持ちが通じ会えると、私は考えます。人には十人十色の考え方がありま

すが、こんな出会いも楽しいのでは、と思います。(利香)

韓国の留学生との出会い

私は今まで、いろいろな人々との出会いがありました。その中で一番印象に残っているのは9年前に出会った韓国の留学生チエさんとの出会いでした。

その年(93年)の5月の中旬に「留学生のための大運動会」というイベントが大阪府立体育館で行うという事を知り、興味を持ち、当日ワクワクしながら行ったのですが、アジアから来た留学生の周りには日本人はあまり集まっていますませんでした。ほとんどがアメリカやヨーロッパ、オーストラリアなどの留学生の方

に集まっていました。

私はそれに少し腹が立ちアジアの留学生が集まっている方へ行き、話かけました。その中の一人が韓国からの留学生チエさんでした。私とチエさんとは何故か意気投合し、その後「さろん亭」の手伝いをしたり、兵庫県の廃線の跡を歩くツアーに参加したり、焼き肉を食べに行ったりと、いろんな所に行きましたが、特に印象に残っているのは奈良の東大寺へ行った時の事です。

東大寺の中に入り、しばらくするとアメリカ人の団体がやって来ました。するとそれが呼び水になったかのように、フランス人の団体、中国人の団体、韓国人の団体と次々とやって来て、それぞれの国の言葉が乱れ飛び、大へん

にぎやかになりました。そんな時にチエさんは突然吹きだし、大笑いしました。後で理由を聞くと韓国人の団体の中の何人かが

「今日は外国人が多いなあ」

「一体、何語なんだ？」

「日本人は、今日はいないのか？」

「アメリカ人はでかいなあ」と、東大寺以外の話題でもちきりだったそうです。

その後も、チエさんの家へ遊びに行ったり、忘年会、新年会で飲んだりしましたが、私は仕事の都合で東京に住むことになり、チエさんもその年(94年)の1月末に帰国しました。手紙も1回送ったままで、交流は終わってしまいました。

今では懐かしい思い出です。

(平岡 太)

障害者の雇用と 就労を考える

12

おわりにかえて
—将来の展望—

茅原 聖治

以上、一年にわたって、障害者の雇用と就労の意義と現在の動向について言及してきた。それをまとめると、障害者は主体的に自己決定・自己選択し、自己のQOLを高めるように生活をデザインすることが求められ、その障害者が自己の能力を最大限発揮できるようなシステム作りおよび社会の変革が同時に進行しているように見える。したがって、これからの障害者の生活には、「仕事をする」ということの重要性が高まるのは明らかである。仕事をし、社会に認められ、達成感を得ることは自己実現の形態であると言える。

産業社会にとっても、高齢化社会の到来に基づくバリアフリー製品やソフトウェア

新たな、そして多様な価値を創造する世紀となると考えられる。

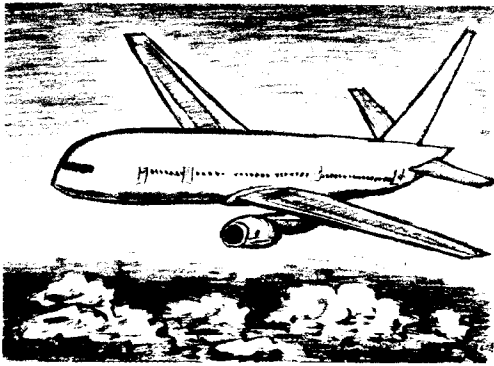
開発などには、障害者が持つ知識や経験、感性などのすなわち人的資本が役立つものと考えられる。したがって、二一世紀の社会は障害者のもつ潜在的な人的資本をいかに活かし、彼／彼女らの自己実現を支援していくかが課題となるだろう。さらに言えば、筆者は、二一世紀は障害者の人的資本を利用する時代であると考ええる。すでに日本経済は成熟期に入り、過去のよう大量生産・大量消費の時代は終わったと言える。そのような成熟社会においては、既存の、もしくはその延長線上にある商品やサービスは飽和状態になり、新たな消費需要を生むことは少ない。それは、産業・経済における健全者社会の単一の価値観の終焉を意味していると言っても過言ではない。したがって、二一世紀に必要なのは、健全者社会の価値観とは違う新しい価値観であり、それが障害者のもつ価値観だと考えられるのである。このように、二一世紀の産業社会は、これまで保護の対象とされてきた障害者の持つ人的資本を有効に利用し、

そして、障害者の雇用と就労を考えることは現在の「労働」のあり方を考え直す契機になる。今までの障害者雇用と就労は健全者への労働に障害者が合わせるという形で進展してきた。しかし、それは健全者の働き方が正しい、あるいは当然と考えることに起因している。しかし、それは長時間勤務、過労死やリストラ自殺などにより必ずしも正しく当然とは考えられない状況になってきている。そこで障害者の就労が「労働」という概念を根本から変革する要素を内包していると考えられる。すなわち、自己実現としての労働という概念がこれまでの労働概念においては希薄であったことを障害者の労働は教えてくれるのである。これらのことを不況下の今考えることは、従来の資本主義・市場社会の変革をもたらす、さらなる資本主義の進化がもたらされるだろう、というのが筆者の展望であり、希望である。

(二年間のご愛読、ありがとうございました。)

★開かれる知恵

人が何かを得るために必要なものとして知恵があるとしたら、その知恵には二つの種類があるにちがいない。一つは、それがどこにあるかということを示す知恵であり、もうひとつは、他のところにもあるかもしれないと知らせる知恵である。どこにあるかを示す知恵は、はつきりとした答えを出してくれる。その方向が東なのか、西なのか、そのどちらかを明らかにする。行くべき方向を狭めてくれ



るといふ意味で、それは「絞られる知恵」と呼ぶこともできるだろう。

この知恵は、世間ではたいへん役にたつものと考えられている。実際、ロケットが空を飛ぶのも、コンピュータが動くのも、この「絞られる知恵」があつてのことだ。ロケットの燃料は分量を少しでも間違ふと、飛ぶことができなくなるだろうし、コンピュータも決められたキーを押さないかぎりは動かない。

この「絞られる知恵」に対して「開かれる知恵」がある。これは、何かひとつに絞り込むのではなく、あれも、これもと多くの可能性を人に開いてみせる知恵である。

たとえば小説を読むときの知恵がそうだ。ひとつの小説には多くの読み方がある。どの読み方が最も正しいということはない。作者が期待していた読まれ方もあれば、作者が思いもなかった読まれ方もあるだろう。開かれた知恵は、その

読み方がさまざまにあることを教えてくれるのである。

しばしば多様性を示す結果に終わる「開かれる知恵」は、はつきりとした答えを出せない知恵として、いまでは「役にたたない知恵」として軽視されている。たとえば、大学でいえば、国文学科や、ドイツ文学科、フランス文学科など、文学を論じる学科の受験生が減っている。源氏物語やゲーテの詩や、モリエールの小説を読んだところで、実生活には何の役にもたたないというわけだ。

私が心配しているのは「絞られる知恵」の栄光と、「開かれる知恵」の没落を前にして、おそらくは「開かれる知恵」を基礎にして成り立っていた学問も「絞られる知恵」を身に纏(まと)うことを自らに求めるようになるのではないかということだ。

私のかかわる社会福祉学も元来は「開かれる知恵」であつたと思う。人が人を

朗読テープのご案内

朗読グループ「糸でんわ」のご協力で〈サロン・あべの〉紙第190号の録音テープが出来ました。

■朗読テープ文庫

- (a) 〈サロン・あべの〉紙は、第1号より第190号までそろっています。
- (b) 〈サロン・あべの〉十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「〈サロン・あべの〉平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ほけっと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (o) 「もうちょっと知っとく？ 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「動くしずかに」(河野勝行編・著＝糸でんわ音訳)

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをしますので、富田(☎06・6691・1028)まで。

前にして、どう援助すればいいかという問題には絶対的な正解などありはしない。それは人の望ましい生き方に絶対的な正解がないのと同じことだ。しかし、絶対的な正解がないからといって、援助について学問は無力であるわけではない。たとえば、数百年も昔、貧しさは貧しい人自身が怠けた結果であると考えられていた。他に、どのような原因も考えられてはいなかった。しかし、現在では多くの原因が考えられている。その多くの

原因ひとつひとつを考えてみることによって、貧しい人たちの生活が見えてくる。「開かれる知恵」の成果がそこにある。「絞られる知恵」は自然科学上の現象など、比較的単純な領域には力を発揮するが、人間が人間について考えるという複雑な領域においては力が不十分だ。人間を考えるのが、また人間自身である以上、人間全体を把握するのは不可能だ。それは網が同じ大きさの網を覆えないのと同じことである。

したがって、そんな人間についての知識は、多様な見方を示してくれる「開かれる知恵」として現れるのだろう。国と国が、民族と民族が争いあう現代において求められているのは、皮肉なことに、いま「役にたたない」と見下されがちな「開かれる知恵」なのである。(知)



植物あれこれ

第四十回

山口康二郎

森林浴は5月病を防ぐ？

新年度1カ月が過ぎ、ゴールデンウィークが終わる頃、体調を崩し、いわゆる5月病といわれる状態に陥る新入社員や、新入生が毎年取り沙汰されます。そんな人に特に薦めなのが森林浴です。もちろん、5月病でない人にもすばらしいリフレッシュ効果があることも証明済みです。

森へ一歩足を踏み入れて、まず感じることは、空気の美味しさです。同化作用によって大量の酸素が放出され、しかも埃や有害物を葉っぱが吸着してくれているばかりでなく、フィトンチッドを分泌して自律神経を整えてくれたりすることは、皆さんすでにご存じのことでしょう。

私が最もすばらしい効果があると感じ



るのは、新緑の色です。緑色を見ると不思議に身体が軽くなったと感じるのは私だけではないようで、緑色は興奮を鎮め、眼の疲れを癒す効果があるといわれています。

森には必ず小さなせせらぎがあります。

その水のおいしいことといったらありません。そのせせらぎの傍らに腰をおろして耳を澄ますと、せせらぎの微かな音に交じって聞こえる鳥の鳴き声、どれも心を癒してくれるものばかりです。理想をいえば小さくてもいい、滝があれば最高です。今盛んにいわれているマイナスイオンがあれば、至福の時が過ごせること受け合いです。

マイナスイオンといえば、先日、長居公園の植物園の大噴水をみながら、同じようにリラックスできました。日頃、電化製品や機械に囲まれて生活しているわれわれはプラスイオンでがんじがらめになっています。滝や噴水の近くでは、マイナスイオンが発生し、低下した免疫力を向上させたり、新陳代謝を活発にしてくれるといわれています。きっと5月病はすつかり全快することでしょう。



美智子のこんな話



岸田美智子

まいどアタッククラブ2002ご案内

出会い・発見・ときめき

くわたしとあなたとアタックしよう！

「まいどアタッククラブ」は、障害者が文化やスポーツをしながら、季節感を肌で受けながら楽しくチャレンジしていく一日体験・企画です。2002年度は、左記の内容で三回予定しています。気楽に参加してください。

◇第1回目

「あの街・この街・知らない街 探険し

よう！」

慣れ親しんでいる「なにわの街」を、チ

ェックしませんか？ そして新たな交流を

日 時 7月14日(日曜日) 11時～16時

集合場所 長居障害者スポーツセンター

交流費 500円程度

申込み締切日 7月1日(月曜日)

◇第2回目

「見て、触って、味わって。酒蔵に行ってみよう！」

しほりたての酒が飲めて、日本酒の魅力

を体験して、みなで夢を語ろう。

日 時 10月20日(日曜日) 11時～16時

集合場所 阪神電車・西宮駅

交流費 未定

申込み締切日 10月7日(月曜日)

◇第3回目

「クリスマスツリーの前では恋人気分！」

梅田、大阪城の巨大なクリスマスツリー

をバックに、今宵の想いを記念写真におさめよう。

日 時 12月21日(土曜日) 午後17時～?

集合場所 JR大阪

交流費 未定

申込み締切日 12月9日(月曜日)

★申込先 申し込み用紙にお名前・希望の回などを書いて、FAXまたはお電話でお申し込みください。

【連絡先】

自立生活センター・MY・DO(まいど)

担当 岸田・下村

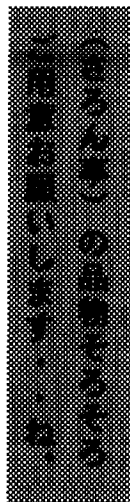
〒558-0002

大阪市住吉区長居西一丁目九番十二

TEL・FAX 06-6609-3210

E-mail

cil-nydo@jasmine.ocn.ne.jp



感謝

カンパ・はがき・お茶菓子・お茶などのご寄贈を、ありがとうございました。

磯崎章一、稲川絢子、I・R、

風 智恵子、原田博子、東谷和代、

表谷恵美子、松村順子、その他



サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」6月の出会い

日 時:6月16日(日)午後1時30分~4時

場 所:淀川区民センター「やすらぎ」

大阪市淀川区玉本町2-14-3

内 容:消費者問題出前講座

~賢い消費者になるためには~

パネラー:安田順子氏

(社) 全国消費生活相談員 茨木市在住

会 費:なし

問い合わせ先:淀川区社協(ボランティア・ビューロー)

☎ 06-6394-2900

E-mail: soraji@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・ひらの」6月の出会い

日 時:6月22日(土)午後1時30分~4時

場 所:ここにこセンター(大阪市平野区平野2-1-30)

内 容:動物と生きて

パネラー:甲斐尚子氏「ハッピーハウス」代表

参加費:1人100円

問い合わせ先:平野区ボランティア・ビューロー

大西 ☎ 06-6795-2200

■「サロン・にし」6月の出会い

日 時:6月8日(土)午後1時30分~4時

場 所:西区ボランティア・ビューロー室

大阪市西区新町4-5-14 6階(西区役所隣)

地下鉄=西長堀駅4A号出口からすぐ

市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ

内 容:車いすフォークダンスを楽しもう!

*レクリエーションゲームなどで楽しい交流会もありますよ

講 師:未定

会 費:なし

問い合わせ先:宮脇 ☎ 06-4394-5353

FAX 06-4394-5354

■《てくてく・すみよし》6月の出会い

日 時:6月9日(日)11時~15時

場 所:さんあびサロン

大阪市住吉区我孫子3丁目

最寄り駅=JR阪和線「我孫子駅」下車

東へ徒歩5分

内 容:手作り焼きパーティー

会 費:2000円

申し込み締め切り:5月末日

申し込み・問い合わせ先:山本篤江 ☎ 06-6692-8411

■「サロンつるみ」6月の出会い

日 時:6月2日(日)午後1時30分~4時

場 所:鶴見会館2階

大阪市鶴見区横堤5-5-51

(地下鉄鶴見緑地線横堤駅5番出口)

内 容:介護保険について知ろう

~申請から認定まで~

パネラー:松下幸一氏

茨田大宮地域在宅サービスステーション

ちどり介護支援専門員

会 費:なし

問い合わせ先:鶴見区社協(ボランティア・ビューロー)

田村 ☎ 06-6913-7070

■「サロンふたみ」6月の出会い

日 時:6月15日(土)午後2時~3時

場 所:伸幸苑

伊丹市寺本町6-150

内 容:朝洋音楽の集い

~在日の朝鮮学校小学生の歌と踊り~

会 費:なし

問い合わせ先:砂脇 ☎ 0727-84-0057 (午後7時以降)

若葉

窓を開けると、さわやかな
緑風がすうつと頬をなで、
木々の初々しい葉がやさしく
目に映ります。

冬の間はどの木も無表情で
何の変哲もなかったのに、五
月ともなればすっかり若葉に
生まれ変わっているのに改め
て自然の偉大さを感じます。
ところで私にはどの木の若葉
も同じようにしか見えません。
しかし歳時記によりますと、
俳句の世界では次のような四
つの若葉に大別してそれぞれ
に特徴をとらえています。

- 一、柿若葉(小さく丸く萌え始
め、少しずつ茂る
と、やわらかくて
鮮やかな萌黄色に
なっていく)
- 二、檉若葉(紅色と緑色がある

晴れのち晴れ ④④

稲垣 恵雄

が、紅色は成長す
るに従いだんだん
色が褪せる。でも
葉自体はみずみず
しく光っている)

三、椎若葉(古葉は濃緑で黒く
汚れたように見え
るが、淡緑の滑ら
かな若葉は古葉と
は対照的に明るい)

四、樟若葉(この葉は日本の樹
木の中では最も巨
大で、長寿を保つ。
若葉の中でも独特
の美しさがある)

五月六日は「立夏」です。暦
の上だけでなく、実際には気
温もぐんぐん上昇し、名実と
もに初夏の装いとなります。
でも、「若葉寒」の言葉通りに
急に肌寒くなる日もあります
ので、お互いに風邪をひかない
ように気をつけたいものです。

FROM EDITOR

編集後記

昭和61年9月11日付本紙3号に「(略)学生の頃、テ
キストを買い込んで3日間、一心不乱・脇目もふらずに点
字をマスターして、ヤッタぞ〜とVサイン。ところがどっ
こい独学がアダして、読む方を憶えて書けばサカサマ。皆から「ダサー」と笑われる。
(略)」と、紹介された人が前田さん。きょうの原田博子さんです。(石)

<サロン・あべの>Vol.191 発行:平成14(2002)年5月18日 定価¥100
編集人:<サロン・あべの>運営委員会 表題:井上憲一・筆 文中イラスト:石田美禰子
事務局:〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方 <サロン・あべの>
TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座:サロン・あべの 00950-9-26941
印刷:セルフ社〒546-0044大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDビル2階 TEL06-6719-8212

一九九一年九月三日第三種郵便物認可(毎日発行)